

第2回 I R 3 S ミクロ研究会議事録

日時：2007年8月29日（水）14：00～16：00

場所：26号館（大隈タワー）301号室

参加者（敬略称）：＜環境エネルギー科＞吉田

＜政治経済学術院＞寄本・鄭

＜環境政策研究所＞増原

＜環境総合研究センター客員研究員＞三田

＜社会科学部＞赤尾

＜事務局＞上野・森住・土江

・寄本より和歌山県紀南地域・東京都武蔵野市の廃棄物処理最終処分場に関する対応の報告が資料に基づきなされた。

三田：武蔵野市と紀南地域の住民の基本的な態度の違いは明確だが、それはどこから生まれたと考えられるか。

寄本：住民の意識の違いだろう。どこか適当な場所を見つけなければならない、行政に任せるのではなく住民達自身が主体者になろうとする意識の違いがそこに現れたのではないかと考える。

三田：和歌山県の様な広域自治体ベースと杉並の様な基礎的自治体での技術的に混乱が伴う心配はないだろうか。

寄本：あるだろう。

・三田より個人研究案（首都圏都市環境インフラ整備における地域環境マネジメント）について説明がなされた。

吉田：サステナビリティ学にのつとる三田先生の根源的研究動機は何か？

どういった危機意識を持って調べていくのかおおよその見当・目星をつけて入らなければならないのでは。

三田：これからもっと研究を進めていく中で、それを見つけていくと思う。どういった方向が決まっていなくて、それを決めていくのは危険ではないか。

吉田：それは確かにそうだが、I R 3 Sとして研究成果を出していただかなければなら

のでぼんやりとでいいから答えを導きだしてほしい。

- ・増原より個人研究案（自治体環境政策のケーススタディのためのパフォーマンス・アプローチ試論）について説明がなされた。

赤尾：市町村の廃棄物排出量を単に人口だけできるのは荒っぽい。所得であるとか産業構造などを含めたパネルデータ分析をやってそれに外れる市町村をピックアップして調査していくべきである。

- ・鄭より個人研究案（廃棄物をめぐる自治体と地域住民団体・市民団体との関係）について説明がなされた。

鄭：アンケートは日本・韓国双方で取りたいと考えている。

日本では、市町村単位で、韓国は224ある自治体で実施するつもり。

赤尾：アンケート項目はもっとピンポイントで絞ってとらなければならない。
官公庁に知り合いがいるならば、その人に参考として答えやすい質問を聞いてみるとよい。